

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18330133

研究課題名（和文）格差社会での協同：格差解消に至る基礎過程の解明と処方的研究への展開  
研究課題名（英文） How to promote cooperation in an unequal society: Extending the findings of studies of basic psychological process to prescriptive studies.

研究代表者

氏名：唐沢かおり

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：50249348

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：社会的認知・感情 社会的公正

### 1. 研究計画の概要

本研究は、劣位な立場にいる人たちに対する支援や格差の解消に関する意図・判断を規定する心理学的要因を同定するとともに、研究で得られた社会心理学的知見に関する社会介入の実現性や介入がもたらす倫理的問題を検討し、社会心理学の基礎研究を、実社会の問題解決や制度設計に生かすことを目指した「処方的研究」へと展開するための方法論について議論する。

### 2. 研究の進捗状況

#### (1) 優位・劣位な立場間での格差認知バイアスと支援意図

格差の大きさや質の認知におけるバイアス・格差の根拠や正当性に関する原因や責任帰属における認知バイアスの存在、支援意図の規定要因を明らかにするための調査を、一般成人を対象に実施した。具体的には、高齢者、女性の就労環境を対象に、就労が困難であることの責任帰属や、立場への共感、ステレオタイプの信念の影響を検討した。分析の結果、これらの変数が、いずれも格差認知バイアスの生起に寄与していることが明らかとなり、格差認知過程モデルを構築する基盤となるデータを得た。また、政治的態度やステレオタイプの知識に影響されることを明らかにした。

#### (2) 支援促進や格差解消を促進する社会介入の可能性と倫理的・方法論的問題の検討

日本心理学会、日本社会心理学会、科学哲学会等のワークショップ、シンポジウムにおいて、社会制度の設計に対して、人々の態度や行動を変える操作を提言することで、社会心理学が背負う責任や倫理的問題

や方法論上の問題点について議論を行った。  
(3) 協同にかかわる基礎的な社会的認知過程の検討

協同の条件の一つである自己制御過程、および、協同に向けてのメッセージ理解過程に焦点をあて、制御資源や感情活性の観点から検討した実験により、協同行動を促進に及ぼす要因として、感情活性や、怒り感情の抑制が重要な役割を果たしていることを明らかにした。また、ステレオタイプの判断を統制する要因について、罪悪感活性化の影響と、平等主義的社会規範の活性化の影響を検討する実験を実施した。その結果、罪悪感活性化よりも、平等主義的規範活性の効果がより強く認められることが示唆され、また、正当化機会の提供により、ステレオタイプの判断が維持されることが示された。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している  
実験や調査等のデータ収集は着実に進行している。また、処方的展開に向けての議論についても、毎年度の学会等での議論が進められている。実験や調査の結果、予測し得なかった知見が、支援意図の規定要因やステレオタイプの反応において明らかにされ、当初予定を変更し、それらの知見についてさらに解明するためのデータ収集を必要としているが、それら新たな調査や実験についても、計画・遂行が進んでいる。

### 4. 今後の研究の推進方針

これまでにえた研究知見をまとめ、格差解消

を促進、阻害する要因間の関係を示した統合的モデルの作成に向けて議論をすすめる。当初予定を変更して行っている実験や調査については、最終年度中に完了する予定である。また、処方的展開についてワークショップ等の開催により、これまでの議論を統合し、最終的な成果としてまとめる予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

野寺綾・唐沢かおり・沼崎誠・高林久美子 (2007) 恐怖管理理論に基づく性役割ステレオタイプ活性の促進要因の検討 社会心理学研究 23, 195 - 201.

具志堅伸隆・唐沢かおり (2007) 情動的メッセージと反すう思考による説得効果 実験社会心理学研究 46, 40-52.

竹橋洋毅・唐沢かおり (2007) 目標フレーミングが感情表象の活性に与える影響 心理学研究 78, 372-380.

唐沢かおり・三谷信広 (2006) 不公平さの認知と他集団への支援的態度：罪悪感と責任帰属の役割 実験社会心理学研究 45, 158-166

具志堅伸隆・唐沢かおり (2006) 怒りと恐怖がもたらす説得効果 社会心理学研究 22, 155-164.

〔学会発表〕(計15件)

唐沢かおり・山口裕幸・戸田山和久・出口康夫 2008 「社会心理学方法論の再検討：パート2」第49回日本社会心理学会ワークショップ

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

取得状況 (計0件)

〔その他〕